

アリューシャン、アラスカ、カナダ間の津波累積エネルギー分布

Distribution of Cumulative Tsunami Energy from Aleutian-Alaska to West Canada

羽鳥 徳太郎[1]

Tokutaro Hatori[1]

[1] なし

[1] None

アリューシャン、アラスカの津波は、18世紀後期から津波カタログに収録されている。本稿ではアリューシャン～カナダ間を島弧に沿い200km区間に分割し、最近103年間(1900-2002)と歴史津波(1788-1899)による各区間の波高2乗累積値を求めて、比較検討した。

解析の結果、最近103年間の累積値はアラスカ湾岸1000kmの区間が最大で280m²となる。この値は、カムチャツカ、チリ南部の累積値にほぼ匹敵する。全期間(1788-2002)のエネルギー累積値は、アラスカ湾岸で全区間の39%、アラスカ半島では32%となり、突出して大きい。今後、地震活動が繰り返されれば、アラスカ半島中部とヤクタット付近での期待値は、最近103年間の累積実測値の約2倍に求まる。その区間は地震の空白域と云われているが、津波データの面からも危険度が高いことを裏付ける。